

NPO法人



2010年 5月15日
第6号

Jomon Shiba



特定非営利活動法人
縄文柴犬研究センター

NPO法人



Jomon Shiba

第 6号

もくじ

会員の皆様! 今年の交流会は、北海道・函館で!	☆JSRC 副理事長、北海道・東北支部長 橘 宏	2
	縄文柴犬交流会のお知らせ	3
シバの散歩道(6)	☆JSRC 理事 根深 誠(文筆家・釣り師・元登山家)	4
「イヌと日本人」西本豊弘著から	☆北海道 橘 宏	7
ミニ交流会報告	群馬県・太田市 ☆荻野千恵子	8
	秋田県・大仙市 ☆五味陽子	9
石黒論文(要約)ニホンオオカミと代表的オオカミ、飼育犬のハプロタイプの比較変化	☆JSRC 理事 藤井忠志	10
「絶滅したニホンオオカミ」ブレット・ウォーカー著、浜 健二訳を読んで	☆北海道 橘 宏	10
おたより	☆群馬県・乗原さん	12
コーナー	☆群馬県・林さん ☆福岡県・大塚さん ☆宮城県・田中さん ☆東京都・竹内さん	13
	☆大阪府・有藤さん	14
	☆「ブラッキーの思い出」石川県・横山さん	15
	☆岩手県・和田さん ☆岩手県・清水さん ☆岩手県・菅野さん	16
	☆犬に係わる各地の掲示物	12
思い出の犬たち-7-	☆柴犬研究所 五味	17
事務局より	☆新入会 ☆寄附・広告 ☆会費 ☆仔犬登録 ☆会計残高集計報告	18
	☆お知らせ 本誌への投稿を歓迎! ☆編集協力者募集!	15
	諸料金一覧・血統登録について	18
JSRC理事会・審査部会・総会 議事録		19
	議事録補足	18
広告掲載:「サン獣医科」		3
	「日の出どうぶつ病院」	11

「愛犬のしおり」用紙を同封いたしましたので、交流会の出欠に関わりなく近況をお知らせください。

・会費や寄附などをお寄せいただいた方の氏名・県名を掲載させていただきますが、匿名を希望される場合は、お知らせください。

特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター

会事務所

郵便振替口座 02280-2-106951

〒 014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5

TEL 0187-68-2976

<http://jomon-shiba.sakura.ne.jp/>

jsrc.jimukyoku@gmail.com

会員の皆様！ 今年の交流会は、北海道・函館で！

JSRC 副理事長、北海道・東北支部長 橋 宏

今年の交流会は、北海道・函館市のドッグランで開催します。ぜひ、多くの会員の方が愛犬と共に参集されることを、お待ちしております。

先日、函館市の土木部の担当者との話で紹介していただいたこの施設は、8年前に開放されたもので、誰に対しても遠慮は要らずに利用OK！ということなので、即座に決めました。

函館は北海道の玄関口ですし、早くから開けた貿易港です。現在は、当時のさまざまな建築物や五稜郭公園などの史跡が多く、松前への道路脇の松並木など、今も当時の面影を残す努力をしているところです。函館山からの夜景は、さまざまなメディアに取り上げられています。

残念なことに、便利なフェリーが経営上の問題で撤退するなどの問題がありますが、ちょうど函館夏まつりの最終日でもあり、多少道路は混むのではないかと

案じていますが、会場となるドッグランは市の中心部から離れた函館空港の手前の丘の下にありますので、混雑もそれほどではない・・・と、思われます。

湯の川温泉街の脇を流れる松倉川の橋（汐見橋）を渡ると、「根崎公園・空港」の標識があり、ドッグランへの標識もあります。（略図参照）

会場予定地からは、松倉川と、川岸のサイクリングロードや住宅街が望め、遠く横津岳・袴腰岳、そして大沼の脇にある駒ヶ岳も・・・。

函館まつりの頃は天候も落ち着くので、多分、この日は素晴らしい交流会になるのではないかと、心躍る高揚した気分です。皆さんの元気な顔と縄文柴犬たちに会えるのを楽しみにしております。

(2010. 04. 06)

会場への案内図



縄文柴犬交流会のお知らせ

日時＝2010年 8月 7日(土)
 午前10:00開会(受付・午前9:30)
 ～午後3時まで

場所＝北海道函館市高松町105番地
 「ドッグラン」(略図参照)

当日は、犬の見方などの質疑応答も兼ねて、
 昼食後は、楽しく自由懇親会となります。



支部の方々には ——

★「出陳申込み」「愛犬のしおり」を兼ねた用紙を同封致しますので、ご記入いただき早めに郵送してください。
 申込み締め切り＝2010年 7月 5日必着!

1. 参加しない場合も

★出陳する・しない。どちらの場合でも用紙に記入して、事務局まで送って下さい。当日の交流に役立ちます。
 不参加でも後日、冊子にして記念に送ります。(支部外の方の参加も同じですので、参加希望の場合はご一報ください。)

2. 審査を受ける場合の出陳料について

審査を受ける犬は下記のような出陳料が必要です。
 (1)幼犬(6か月未満) 一頭 1,500 円
 若犬以上 一頭 3,000 円
 (2)当日受付で、出陳料と引換えに、出陳番号札を受け取って下さい。

3. 宿泊希望者は

申込み締切日迄に表記事務局まで。

特に、遠方からの参加者については、個々に相談致します。

4. 雨天でも開催(雨具など、各自用意して下さい。)

5. 申込みは

北・東北支部事務局まで所定の用紙をご利用の上申し込んでください。

支部連絡先:〒014-0073 大仙市内小友字堂の前119
 JSRC北海道 東北支部 事務局 五味陽子
 (Tel.0187-68-2976)

不明な点は遠慮なく問い合わせてください。

6. その他

- (1)昼食は各自用意するか、当日、受付にて弁当の注文も受け付けております。(弁当受け付けはAM. 10:00迄)
- (2)紙屑や犬の糞など、各自が責任を持って片づけて下さい。
- (3)会場内の犬の管理は、飼い主が責任を持って下さい。
- (4)夏期休暇を兼ねての家族旅行などで、マイカーをご利用の場合は、事前にフェリーの発着時刻を確認してください。



電話1本

出前出張致します。

狂犬病・ジステンパー等のワクチン
 フィラリア・ダニ・ノミ等の駆虫 etc.

TEL FAX **0182-44-5505**
 携帯 090-4312-2208

サン獣医科
 獣医師 高橋正志
 秋田県 横手市十文字町越前104-2

予防専門

シバの散歩道 (6)

根深 誠 (文筆家・釣り師・元登山家)

—— 久渡寺山に登る

弘前市内を流れる土淵川は久渡寺山の北斜面から流れ出ている。この連載で以前にも述べたかもしれないけれど、私の住居は土淵川の上流域に開発された、リング畑と田んぼに囲まれた住宅地にある。住宅地が開発されてから三十年あまりになる。川沿いに田んぼがひらけ、背後の丘陵地帯にリング畑が続いている。リング畑の尽きる西の空には岩木山が、そして土淵川の上流の南の空には久渡寺山が見える。

土淵川沿いの遊歩道を中心にした付近の田園地帯が、私とシバの、朝夕の散歩コースになっている。私は散歩しながら、山や川の地勢を考慮した里山田園構想が市政に反映されるようになったら、いまよりましな地域社会になるのではないかと常々願っている。しかし、大方の人たちの関心や意識は、そこにはほとんど向かっていないことを知るにつけ情けなく、かつ腹立たしくも残念に思うのである。私には大方の人たちの思考や価値観から自然が欠落しているように見える。

これまでも述べたように、ゴルフ球がネットを飛び越えてくるし、飼犬やカルガモやカラスは殺害されるし、そのことの防止を訴えても市役所は無責任なほっかむり主義を決め込んでいる。つまり無視しているの

だろう。自浄能力を失っているとしか言いようもない。この件についてはいずれ改めて述べるが、市役所の腐敗ここに極まりの状態で、そのことを象徴するような問題や不祥事が相ついで起きている。私は環境決定論者ではないけれど、人事や自然にかかわるよりよい環境は、私たちが生活するうえで大切な要素になっていると思う。

それとは直接には関係ないかもしれないけれど、この三年ほど前から、土淵川の私の散歩コースではカルガモの姿を見かけなくなった。なにか原因があつたことだろうが、変わったことといえば、新しくできた温泉から一時的に排水が流れ込むようになった。私にはもちろん因果関係はわからないし、ちよくちよく私も、持病に効き目がありそうなのでその温泉を利用している。

私がシバと散歩するようになってから、この数年の間にも周囲の環境は、人事も含めてさまざまに変化しているようだ。有為転変の世の中だから仕方がないとしても光明が感じられるような方向へ動いてほしいものである。



・散歩コースから田んぼの向こうに眺めた冬の久渡寺山
(筆者撮影)

早いもので、シバを預かってから満五年になろうとしている。この間、シバといっしょにいつか久渡寺山に登ろうとの思いを抱きながら果たせないまま現在に至っている。以前、秋と冬に一回ずつ、一人で下見したことがあった。夏に連れて行くとダニに食いつかれるので雪のある時期がいいだろうと考えていた。

久渡寺山の麓には津軽三十三観音第一の札所・久渡寺がある。オシラ神信仰のメッカで大祭になると津軽一円からイタコが参集し、堂内ではなにやら日くつきの幽霊の絵が披露されたりして大賑わいになる。この久渡寺の境内に「こどもの森ビジターセンター」があつて、子どもたちの自然体験学習の場になっている。

私の住居からビジターセンターまで約五^キ。緩やかな上り坂で、以前は山登りのトレーニングにこのコースを走ったりしていた。しかし、いまは腰痛が悪化し、胴回りが一^タを超えるほどの肥満体であり、とても無理。

昨年春、雪が消えてリンゴの花が咲くころ、シバを連れて二回、ビジターセンターまでは歩いて行ったことがあった。そして今年になって二月下旬のことだが、天気の良い日を選んで意を決し、山頂をめざして出かけた。

麓まで息子に車で送ってもらい、ビジターセンターでストックを借りた。館長のS君は私とは旧知の仲で、昔、私が白神山地の林道建設反対運動を起こしたとき事務局を引き受けてもらったことがある。

シバは車に乗り慣れていないせいか、乗車中暴れていたが、降りてからも落ちつかない。ビジターセンターの玄関先でいきなり脱糞した。緊張しているのだろうか。それとも遠出して気分爽快にでもなったせいだろうか。以前、生家に車で連れて行ったときも玄関先で糞をした。もしかしたら挨拶代わりに糞をする癖でもあるのだろうか。あれこれ考えてもなにぶん飼犬のことであり、私には推量の域を出ない。

シバが糞をしたのを見て、糞入れの袋を忘れてきたのを思い出し、S君からゴミ袋を分けてもらった。シバの糞を拾ってザックに突っ込む。

私は今回、シバとの山登りで両手を離すことができるように、紐で肩がらみにした輪に登山用のカラビナを掛けて、そこからリードを延ばした。こうすればストックを突きながら歩くことができる。

先行者の足跡が雪の斜面に続いていた。輪カンを履いている。スパイクつきの長靴でツボ足の私はときおり潜った。S君が輪カンを勧めてくれたのだが、たいしたこともないだろうと高を括って遠慮したのだ。雪が堅いうちはよかったけれど、日が射し込んで雪面が腐ってくると潜る頻度も多くなった。

山頂まで2・3^キ、夏場なら一時間半のコースだ。私は途中二回休んで、二時間あまりかけてゆっくり登った。日ごろ、歩くことに馴染んでいないので身体が重い。心と身体の動きが一致しないアンバランスな感覚を、子どもでもあやすように騙し騙ししながら歩く。

休んでいるときシバはお座りしているのだが、歩き出すとさっさと下ろうとする。登りたくないのだろうか。「こっち、こっち」と言って、私が先に行くと、あわてて私の前に出て歩く。スギ木立を抜け、山頂ちかくで沢を横切ると急斜面になる。足元が不安定で、シバに引っ張られながら四つん這いになって登った。雪面にはウサギやカモシカ、タヌキ、テンなどの足跡が見られた。獣の臭いがするのかわ、シバは敏感に反応し、吠え立てた。

山頂に着いてから、おにぎりを分け合って昼食にする。秋田との県境の田代岳がまぢかに見える。岩木山も優美な山容を見せていた。風が冷たいので早々に引き上げる。歩き出してすぐに、シバはまた糞をした。朝方の散歩のときからこれで三回目の排便だ。相当に腸内に糞を溜め込んでいるようだ。先ほどと異なり軟便である。冬になると食欲が増し、普段の散歩でも三回便をすることがあった。

帰路は「太陽の道」と呼ばれる尾根筋のコースをた

・久渡寺山の山頂から眺めた岩木山。
(筆者撮影)



どった。尾根が南北に延びているので、西側から冬の季節風を受けて雪庇が東側に張り出している。風をともに受ける尾根筋の西斜面では、まだ二月というのに雪が消えて腐植土があらわれ、登山道が一部見えていた。山頂と異なり、だいぶ温かいので私は二股になったブナの根元に腰をおろし、お茶を飲んだり、ミカンやチョコレートを食べたりしながら大休止した。

西の空には、晴れていれば白神山地の山並が眺められるのだが、生憎、寒々とした薄雲がかかっていた。しかし、頭上には青空がひろがり、私がいる場所では

日が当たっている。汗の匂いがして、私は山に熱中していた若いころを思い出した。ひさしぶりに山を感じたのだった。これからは、たまには岩木山に登ったりして体力をつけ、余裕をもって歩くことを愉しめるようになりたいものと思った。「頸椎と腰椎がメチャメチャになっています。もう二度と荷物を背負ってはいけません」と入院中に注意されて以来、山歩きから遠ざかり何年も経ったような気がする。十年にはなるかもしれない。



・岩落山にある日当たりのいいブナ林にて。
(筆者撮影)

岩落山の緩やかな西斜面にブナの二次林が広がっている。見たところ樹齢百年ぐらいだろうか。灰白色で滑らかな樹皮の肌艶は、わが家の庭の黒ずんで生気をなくしたブナとだいぶ趣を異にしている。やはり、環境の適正度からいっても、ゴミで埋め立てた住宅地に植えたブナとは月とスッポンの違いがある。明るい陽射しが降りそそぎ、ブナ木立が雪面に影を落としていた。こんなところにテントを張って酒を飲んだら、さぞかし素晴らしいだろうと思いながら、シバをブナの幹に繋ぎ止めて私は一人で付近を散策した。

岩落山から急傾斜の尾根を下る。午後になり気温が上がっていた。腐った雪に、私はボコボコ潜って何度も転倒した。シバが元気よく勇んで下るので、引っ張られてよろけてバランスを崩し、ときにはみっともないことに前のめりに転倒したりした。脚力が衰えて股が開いてしまい、使ったことのない筋肉が伸びきって痛いなの、後ろ向きに思わず、もんどりうって倒れた。跳ね返った枝にしたたか顔面を打ちつけられたりもした。メガネも吹っ飛んだ。シバはいっこうに配

慮しない。突っ走って行こうとする。「こらーッ、待てーッ、シバー」と引っ張られて叫び声を上げながら息せき切って、ようやくのことで麓のスギ木立に入った。

往路のコースに合流したのだ。それまでのブナやミズナラの明るい落葉樹林と異なり、陽光が遮られてひんやりとした陰気な空気が漂っていた。雪が締まっていた歩きやすくなった。ビジターセンター付近の雪山で遊ぶ子どもらの歓声が聞こえてくる。

ビジターセンターには小学生と思われる十数人の子どもらが集まっていた。そういえば、この日は日曜日だ。母親らしき若い女性も何人かいた。子どもたちを集団で連れて来ることについてS君に相談しているのは、話の内容からして小学校の教師らしかった。

S君が私にコーヒーを立ててくれた。ほのぼのとした香ばしい香りが立ち昇り、今日一日が充実したものに思えてきた。私は事務所の電話を借り、息子に迎えに来よう連絡した。

(2010.03.30)

JoeとMon 作画 ぽよよ〜んオヤジ

第5話 負けるが勝ち?

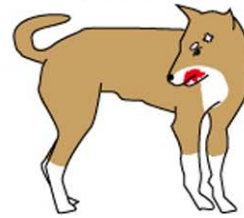
ひさしぶりに、野原に2匹を放したら、まれに見る大げんかが始まり...



①

②

けっ、口癖にもない奴...



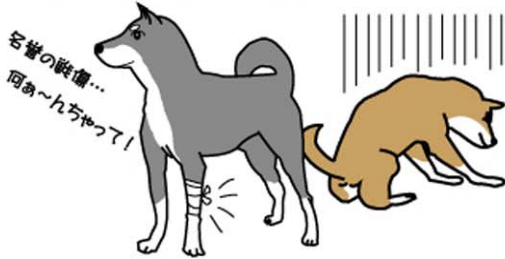
血みどろのけんかになって、Joeはさながら血だらけの猛獣、Monは傷だらけのびっこを引く犬になってしまい...

出血してるけど、骨折してないし、全勢けがは深くありませんよ!



③ 救急で近所の獣医さんに駆けつけたのですが...

④ それ以来、Joeは、見境のない残酷な犬、Monはその暴挙に堪え忍ぶ偉大な犬として、家族に評価されたのです。



...うーん、勝ったのはどっち?

JoeとMon 第5話 負けるが勝ち?

作画:ぽよよ〜んオヤジ・文:風(フウ)

やった〜「負けるが勝ち」ってコトバ、どこかのおじさんが言ってたの聞いたことがあるわ。えへへ・・・、こんどのケンカでは「血みどろ」っていわれてしまったけれど、心配させてしまってゴメンナサイ、オトーサン!ほんとは、わたし、あんまり痛くも悲しくもないのよ。

「血だらけの猛獣」って書かれちゃったけれど、ワタシ達「犬」族だって皮はけっこう丈夫なのよ。思いっきりひっぱっても、簡単にはとても破れそうにないものよ。

ワタシ達、「犬」だってチョットぐらい血が出ててもペロペロなめてキレイにするのは、得意ワザ!獣医先生だって、ホンネは、「このくらいのキズなら、放っておけば犬が自分でなめて治すよ。薬なんかつけてもなめちゃうよ」というところじゃないかしら?

気の毒なのは、うっかり私・Monの誘いに乗って、日頃のモヤモヤを晴らそうとしたJoe・・・。

寒い冬がようやく終わり近くなって、春がやってき

ました。Joeだってココロうきうき、ちょっと威張ってみたかっただけなのに・・・。

でもね、「残酷犬」なんて言われちゃマズイ!

オトーサン!ワタシ達の食餌はそろそろ「春夏向け」のあっさり味にしてください。今、流行の「草食系」でネ!

※野性時代から引き継いだ、「順位争い」の感覚には、家庭犬といえども縄文柴犬はとても鋭敏なところがあります。この犬の複数飼育では、常に彼ら犬達のこの感覚を飼主たる者は意識して接することが、とても大切になります。給餌・散歩等々彼らが特に楽しみ、期待していることには、常に飼主もその順位に注意してやりましょう。時には、その順位も入れ替わる事が起こり、縄文柴犬を複数飼育していると、実に見事なルールが観察出来ます。古来から保ち続けた縄文柴犬の、そうした感覚や、付き合い方を体験し発見し、共に楽しみましょう。

(2010.04.05)